



支部だより No.149

日本山岳会京都・滋賀支部

2022年12月15日

ご挨拶

年末年始に思うこと

支部長 松下征文

今年の夏は連日の猛暑日で山行意欲もそがれてしまいました。そのような日々も台風や豪雨と共に過ぎ、コロナ第7波が減少傾向で進行中ですが、人流制限もなくなりインバウンド大歓迎施策により第8波が懸念されるところです。これからも感染予防対策は忘れないようにして計画を実施しましょう。

今は雪山、冬山シーズンです。支部計画や、個人計画等で冬山を楽しんでいただきたいと願っています。リスクをよく考えて計画していただき遭難事故が起きないように楽しみたいものです。

今年は若い方の入会が進みました。新入会員に向けた山行計画が求められます。先輩会員として特に若い入会者への各種指導や支援をお願いいたします。お勧めの山やルートの紹介、登山技術、登山装備の指導、山書紹介、各シリーズ山行や新しい写真サークル等へのお誘い声掛け等お願いします。

10月の山行委員会では次年度の計画が検討されました。詳細はそれぞれ担当者と共に検討していくこととなります。先輩方のお知恵を拝借して面白く楽しい計画にしたいものです。

安心登山のためのお勧め装備。一見ますます便利なデジタル機器たるスマートフォンは山装備に欠かせないものとなりましたが、今年の夏のような大規模通信障害が心配です。またスマートフォンは電池切れ、故障等のリスクがあります。軽くて便利な機器ですが、頼り切ると命取りとなりかねません。少なくとも国土地理院地形図とコンパスは持って行きたいものです。読図はこれからも忘れてはいけない技術でしょう。登山者の位置情報も家庭で確認できる時代ですが、安価な「ココヘリ」等のもっともっと普及させたい装備です。特に高齢の方や登山者の少ない山やルートを好まれる方や単独登山には必需品と言えるでしょう。是非考えてみてください。

何かとせわしい師走ですが、今年一年大変ありがと

うございました。

会員の皆様方にはコロナやインフルエンザに感染することなくそれぞれの場所で良き新年をお迎えください。新年会でお会いできるのを楽しみにしております。

追記

10月20日、関本俊雄会員からうれしいニュースが届きました。関本会員が、当支部と古くからの友好団体である「新宮山彦ぐる一歩」の活動に対する推薦文を書いて申請していた、秩父宮記念山岳賞の受賞が決まったとの知らせが入りました。



新宮山彦ぐる一歩

1974年に発足した山の会。'84年から南奥駈道の整備保全活動を開始。世界文化遺産である熊野古道奥駈道の再興、避難小屋建設、保守管理、登山道（古道）の整備を評価され受賞が決まりました。授賞式は12月3日（土）日本山岳会年次晚餐会にて執り行われました。

活 動 報 告

大文字納涼登山

松下征文

コロナ第7波に翻弄されていましたが、特段の規制もなく予定通り集まって実施しました。そのような状況での参加者は少なく少し寂しい感もありましたが、新入会の藍野さんや池ノ内さんの参加があり楽しいひと時となりました。

火床周辺は多くの登山者でにぎわっていました。ウクライナからの女子留学生も同僚たちとウクライナの国旗を持って登ってきました。一日も早く無駄な戦争が終わることを願うのみ。

夕立の心配もなく京都の夜景を楽しんでコロナ感染予防を願って下山しました。

来年もより多くの会員で夜景を見つつ楽しく集いましょう。

実施日：2022年7月30日（例年7月の最終土曜日）

参加者：矢野正明、松下征文、津田美也子、松下征悟、
上野陽子、藍野裕之、池ノ内直樹、
（友の会）梅影順子、（一般）6名



日暮れ前に大文字の火床まで登って涼んだ

歴史と文化の山旅

青春 18 切符で行く湖東の古城巡り 安土城跡と佐和山城跡

伊原哲士

湖東にはふたつの廃城となった城跡がある。ひとつは織田信長が築いた安土城。もうひとつは石田三成の居城である佐和山城。ふたつとも戦国時代の城の遺構が多く残る。それらを訪ねることにした。前日に、中川寛さんが佐和山城の遺構の現地説明会の新聞記事を送ってくれた。予定する登り口の反対側になり時間的には微妙だったが、貴重な情報提供は有り難い。

JR 安土駅に朝 10 時に集合した。参加は京都の幣内さん、山田さん。大阪から上野さん。奈良の私の 4 人。数日、空は雨の気配を帯びていたが、この日は曇り時々晴れの天気だった。暑気と湿気が身体を苦しめる。安土駅から安土山まで歩く。

安土城は琵琶湖の東、中世東海道の脇街道であった下街道沿いにある。安土山（199m）にある安土城は山城であるが、戦国時代末期に起きた城郭革命の城であった。正確に言うと安土城は、岐阜城のような山城と大坂城のような平城の中間にあたる平山城である。その後、日本の城の規範となった山頂付近にそびえる天守閣の存在。織田信長は「天主」と表現して、後の江戸時代の天守閣のように建物としては使用せず事実上の飾り物となっていたのとは違い、天主閣に居住し使用していた。

門から入ると石垣に圧倒された。安土山の山麓から天守閣に向かって伸びる大手道は階段も側溝も壁も全て石造りである。すなわち安土城は日本最初の総石垣造りの城であった。それまでの日本の城は土を掻き上げて土塁を築き板塀で守りを固めた城であった。

何故、総石垣造りの城が必要であったのか。新兵器の鉄砲の存在である。従来の土を掻き上げて土塁を築き板塀で守りを固めた城の前では、鉄砲の破壊力は強力であり、板塀の存在はあまりにも無力であった。重い土塀を築き鉄砲の防ぎとしたが、従来の土を掻き上げての土塁の上に築く土塀では、土塀の重さに耐え切れず土塁も土塀も短期間で崩れてしまう。

そこで登場したのが石垣であるが、高度に石を積む技術は無かった。岐阜城から安土城までの間に織田信長の版図は大きく広がったが、同時に琵琶湖周辺の寺々に高く堅牢な石垣を積む穴太衆と呼ぶ技術集団の技術を手に入れた。岐阜城は 3m の石垣を積むのが限界であったのが、安土城では 10m の石垣を積むことが出来た。これだけの膨大な石を近辺から急激に集めた為、

既存の寺院の石垣の石、また石仏までもが石材の材料に使われた。

こんな話をしながら登ったので息が切れた。

本能寺の変の後、明智勢に占拠されていた安土城は無傷で放棄された。次男織田信雄が接収する空白の間に炎上した。唐風の壮大な天主閣は琵琶湖に向かって崩れ落ちたと記録にはある。安土城の俯瞰図はローマ法王に寄贈されたが、現在、その存在は行方不明である。ローマ法王庁の何処から出てきて日本に返還されれば、国宝級であることは間違いない。

余談だが平成4年（1992年）、安土城址にある惣見寺に伝わる『織田家過去帳』のなかに「慶長十七年（1612年）七月九日信長公御台」の記述が発見された。御台は正室に対してのみ使われる。また惣見寺にある織田一族の墓石の配置と法名を記した図面から墓所の位置も確認されている。美濃の斎藤道三の娘で織田信長の正室となった帰蝶は織田信長の次男である織田信雄が最後まで世話をし、正室は本能寺の変後、30年後に世を去ったことになる。

4人はぶらりと安土城の山道を降りてきた頃には、佐和山に行く気力は失せた。結局、そのまま帰途となった。佐和山は次回としたい。

実施日：2022年8月20日（土）

参加者：伊原哲士、上野陽子、幣内規男、山田和男

健幸登山教室 古道2

千草(千種)街道

松下征文

千草（千種）—コクイ谷出合往復

当初の予定は、滋賀県東近江市甲津畑から朝明ヒュッテ間の千草街道を1泊して往復の計画であったが、台風15号の影響を考慮して三重県側からと滋賀県側からの2回に分けて行うことになった。

今回の参加者は5名となり、草津田上ICより新名神、東名阪で朝明溪谷有料駐車場に向かう。

自分の若いとき鈴鹿に入山するには2日を要したが、今は朝明溪谷登山口まで1時間ほどで行ける。鈴鹿の山々が日帰り可能となっている。

日本山岳会記念事業の山岳古道120選に選んだ古道の調査山行である。鈴鹿には他にも山岳古道があるが京滋支部は千草街道を選び踏査することにした。

朝明駐車場で千草街道についての詳しい情報を得ることが出来た。この周辺の駐車場はどこも満車状態で

ある。ここから釈迦岳、御在所岳等の鈴鹿中心部への入山者が多いことがうかがえる。千草街道では数名の登山者とすれ違っただけである。

今日はスマホの「スーパー地形」アプリだけで記録していく。素晴らしいアプリであるが説明書をしっかりと読み込まないと活用出来ない。

駐車場から根の平峠方面への登山口に入る。しばらくは舗装された道路が続き、各団体の山小屋がいくつも点在している。朝明川にかかる最初の橋に「旧千草街道：根の平峠登山口」と書いた道標がある。地形図を確認しながら進む。ルート上の道標にはすべて旧千草街道の標示がある。橋を渡ると山道となり、伊勢谷の川沿いを登る。スギやヒノキの人工林が無いので気持ちよく登ることが出来る。沢を外れて少し急な登りを登りきったところが根の平峠であった。50数年ぶりに再訪出来たが当時の記憶は全くよみがえってこなかった。峠の西側はかなり広い平坦な草地となっていて清々しい場所である。少し休んで緩やかな下りとなる登山道を行くと上水晶谷に出る。ここを渡りしばらく行くと神崎川とコクイ谷との出会いに着いた。

コクイ谷が神崎川に流れ込む場所は美しく、周辺にはトチノキの巨木が点在している。ここでゆっくり時間をとって昼食とした。ここはいつか泊まってみたいと思えるところだ。神崎川源流で淹れたコーヒーが格別である。帰路は同ルートを下山する。

帰りに千草街道を導いた千草の常夜灯を見学する。巨大な石灯籠である。近江と伊勢を結ぶ千草街道を多くの人馬や文化が往来したのであろう。本当にこんな山越えて往来があったのかと思うと往時の人々の苦労がうかがえる。

前回の近江坂と共に歴史を秘めた古道の深みにはまっていきそうである。

実施日：2022年9月25日（日）

参加者：村上 正（L）、松下征文、土井文雄、上野陽子、村松稜太

山歩会 9 月例会

賤ヶ岳～山本山

中川 寛

今回計画した賤ヶ岳から山本山への稜線歩きは、広島支部との交流登山で歩いたコースで、近江湖の辺の道として整備されている。近江湖の辺の道は、近江舞子から近江八幡を、琵琶湖を北回りに結ぶ約 140km の自然歩道で、賤ヶ岳から山本山への稜線を歩く山岳コースは古保利古墳群や山本山城跡など悠久の歴史に触れることのできるコースとなっている。

例会当日の天気予報は降水確率 60% で、実施するかどうか悩ましい予報であったが、現地の 1 時間毎の予報を見ると午後 2～3 時から雨との予報で実施することとした。

JR で米原經由木ノ本駅に 8:58 に着き、タクシーに分乗して賤ヶ岳リフト乗り場まで移動し、リフトに乗り賤ヶ岳山頂に登った。賤ヶ岳からの眺望はいつ来ても素晴らしく、三等三角点を囲み記念写真を撮ったあと山本山に向かい出発した。・368 を越え良く整備された尾根道を進むとやがて登山道上に三角点(四等、点名：西山)があり、ここでも記念写真を撮った。今日 2 つ目の三角点だ。ゆるやかなアップダウンのある道を進み、眺望はないが少し開けた場所でちょうど 12:30 となり昼食をとった。

急な下りを下り切り、峠に着くとここから国指定史跡・古保利古墳群のある尾根歩きとなる。古墳群は西野山から山本山に至る 3km に及ぶ細長い尾根に前方後円墳 8 基、前方後方墳 8 基、円墳 79 基、方墳 37 基の 132 基で構成され、時期は古墳時代前期から終末期と推定されている。古墳群中最大規模の西野山古墳は全長 90m 前後の前方後円墳で、当時の重要な交流・交易の手段であった琵琶湖水運を押さえ、大きな権力を持った豪族とそれを支えた強力な集団がいたことを物語っている。

片山トンネルが下を通る峠には、「この道は、明治 27 年頃から昭和 37 年まで片山の児童たちが現在の古保利小学校へ通学した道です。私たちは山越えて通学した先輩の苦勞をしのび、後世に伝えたいと思います。」と書かれた古い看板が置かれていた。ここからが山本山への最後の登り、脚は大分疲れてきたが黙々と前へ進んだ。

14:45 頂上着。頂上には土塁に囲まれた山城の跡が残っており、三角点(二等、点名：山本山)は土塁の上にあった。今日 3 つ目の三角点を囲み記念の写真を撮った。山本山は、湖北の要衝であり、平安時代に山

本源氏義定、義経が山上に城を築き、後には浅井氏の支城が置かれていた。以前は頂上からの素晴らしい景色を楽しめ期待していたが、樹木が育ち視界を遮っていた。それでも竹生島だけは見ることができ眺めを楽しんだ後、15:00 麓の朝日山神社への道を下った。15:30 朝日山神社の鳥居に着き一息入ると雨が降り出し、ラッキーな山行を無事終えることができた。JR 河毛駅までのタクシーは 1 台しかなく、3 往復で駅に向かうことになった。

高齢者が山行を楽しむには公共交通機関を使うことが望ましいが、電車、バスの本数が減り、地方ではタクシーの数も少なくなっており不便な時代になったことを実感した。

実施日：2022 年 9 月 27 日(火)

参加者：中川 寛(L)、遠藤将一(SL)、上田典子、宇都宮道人、大倉寛治郎、竹下節子、西田 均、(友の会)池上清司、川寄紀久子、京極明美



山本山の山頂にて

巨木探訪シリーズ 9 月例会

米原方面の巨木探訪

岡田茂久

先月の巨木探訪はレギュラー参加者の都合で中止になったが、コロナウイルスまん延防止措置が緩和され、コロナもいつしか他人事のように思われてきているが、それでも十分注意しながらの「湖東の巨木探訪」であった。

四条大宮を 8:30 に出発、今日の予定は滋賀県関ヶ原・米原方面に 10 ヶ所程も訪ねるもりだくさんの計画で、名神京都東 IC から関ヶ原 IC に向かう。コロナ対策で車窓を少し開けての走行は、良く晴れた天候であり吹き込む外の風もさわやかである。

①関ヶ原中町の八幡神社 スダジイ 幹周 8m・樹齢 700 年 県・町指定天然記念物

関ヶ原ICを出るとまず合流するのが国道365号で「薩摩カイコウズ街道」という。関ヶ原戦役の折、島津軍が東軍の重囲の中を敵中突破して退路とした街道という。国道365号を西に向い西町交差点で国道21号を右折すると、直ぐ左手に関ヶ原戦役「東軍本陣跡」八幡神社参道がある。JR関ヶ原駅に程近い。目当てのスダジイは八幡神社社頭に石垣上の石柵とフェンスに三方を囲われ、社務所の庭前だけが開けている。折から社務所は工事中であり、声をかけて庭に入れて頂き写真だけは撮れたが、手前の池に阻まれ近くには寄れなかった。関ヶ原戦役当時から存在していたようで、樹高は低いもののどっしりと、悠久の歴史を見てきたであろう重みを感じられる古木であった。

巨木探訪シリーズでは個々の樹木の全てを写真で紹介したいのだが、紙面の都合で2枚程度に制限されている。しかし、写真では「これか」で完結するが、簡単な文章での描写ではあるが、読む人の感性で巨木の様相を想像していただきたい。

②関ヶ原松尾の春日神社（月見の宮）スギ 幹周 5.8m、樹齢 800 年 町指定天然記念物

八幡神社から国道21号を西に向かい途中から旧中山道に入り、「不破の関跡」手前の住宅街の中にある。国土地理院地形図に神社マークもなく境内も狭い小祠の春日神社であるが、古来月見の名所として知られている。関ヶ原戦役時の東軍福島正則の陣跡であり、「関ヶ原合戦図」にも描かれているという名木である。しかし、大きく張り出していたと思われる太枝は、道路の障害物としてであろうか無残にも伐採されて、往時の樹勢を思うよすがも無いのは残念である。如何なる訳か境内には釣鐘堂があり、神社は後世に建てられた様子である。それでもスギの古木は古武士然としたたずまいで見事なものであった。

③関ヶ原今須町の今須八幡神社 ケヤキ 幹周 9m

春日神社を後に「不破の関跡」から国道21号を西に向かい、関ヶ原戦役時のキーマン小早川秀秋が陣を張った「松尾山」を左手に見て今須峠を越える。国道21号が東海道線と並行するあたりから、旧中山道今須宿に入ると左手に今須八幡神社の鳥居がある。その右の道を入り名神高速ガードを潜り直進、八幡神社前の「すぎっこ運動広場」グラウンド前の空き地に駐車。害獣防止柵を開け、今須川にかかる素朴な木橋を渡り境内に入る。江戸時代の幕府道中奉行が編纂した「五街道分間延絵図」にも描かれた名利らしいが、今では訪れる人も減多にないらしい田舎の神社である。ところが本

殿は素晴らしい造作である。一段高く積み上げられた石垣の上に、瀟洒な檜皮葺き一間社流造であるが正面は千鳥破風、側面は唐破風で飾られ、なんとも風雅な趣である。関ヶ原町指定重要文化財。しかし目的の幹周9mのケヤキは痕跡も無くどうやら場所違いの様である。

④関ヶ原今須町の貝戸天満宮

今須八幡神社にはケヤキ幹周9mが存在しなかった。近く、今須川を遡った貝戸集落の「村社貝戸天満宮」を訪ねてみた。ここには「日本歴史街道、今須宿」の標柱が建っていた。旧中山道沿いでは無い神社に何故にこんな標柱があるのかは不明。期待していたが、ここにも「ケヤキ 幹周9m」という巨木の存在する痕跡は無かった。

⑤米原市梓河内の八幡神社 カツラ 幹周 7m 神明神社 スギ 幹周 5.2m

岐阜県から滋賀県の柏原宿に入り、国道21号が名神高速と並行すると梓河内集落入口の交差点である。交差点には「清流の里河内」の石碑が立っている。名神高速下のガードを潜り進むと、途中左に「八講師城跡」への道が分岐する。道路沿いの清流は梓川という。河内集落の中ほど左手に八幡神社。「カツラ 幹周7m」は社殿の右奥にあったが、各地のカツラは幹周10mを越えるものが多く、特別な感慨も沸くことは無く珍しくはない。これかという感じであったが、境内の焚き火用窯は、径2m程もある銅製タンクを輪切りにしたもので迫力があつた。

続いて集落の最奥の神明神社「スギ 幹周5.2m」に向かう。集落道路最奥の害獣侵入防止柵を開けて林道に入ると、少し先に神明神社への梓川に架かる木橋が見える。小さな社殿の周りに数本の大杉が見えるが、境内に登る石段脇にある地表から3m程で2本に別れた「夫婦杉」が際立っていた。環境省「巨樹巨木林DB」にある実測幹周5.22m、樹高33mであろうか。石段下には美味な「子宝の水」という清冷な湧水があつた。八幡神社に戻り、今日は名神SAで各自購入の弁当で焚き火用窯を囲んでの昼食となる。



神明神社の「夫婦杉」

⑥米原市清滝 イブキ 幹周 5m、樹齢 700 年以上
米原市指定天然記念物

昼食後、国道 21 号に戻り柏原から清滝に向かうが、後醍醐天皇の側近「北畠具行卿墓所」の標識に惑わされて山道に迷い込み、30 分のロスタイム。ようやく清滝神社と戦国大名京極氏菩提寺の「徳源院」前までたどり着き、「イブキ 幹周 5m」探索するが、所在地にたどり着けず断念する。帰宅後の調べで直近まで来ていたことが判明、残念なことであった。

⑦米原市杉澤の勝居神社 スギ 幹周 5m、樹高 35m、樹齢 600 年 県指定自然記念物（勝居神社近傍に杉沢集落北結界の野神として崇められている巨樹）

清滝から JR 東海道線に沿って北上し（JR 東海道線の柏原駅から近江長岡駅へは、伊吹山に向って北へ大きく迂回する）、伊吹山麓を通る旧来の北国脇往還（関ヶ原～木之本）で国道 365 号の米原市杉澤の勝居神社に向かう。建武の中興では、後醍醐天皇の皇太子守良親王（五辻宮）が勝居の神宮寺である正明寺に本拠をおいと伝えられ、織田信長、丹羽長秀、豊臣秀吉等の武将の崇拜を受けて栄えた神社。特に秀吉は天正 11 年（1583 年）「賤ヶ岳の合戦」へ向かう途中、勝居神社に立ち寄り必勝祈願をし、「ゆく先のいくさにかち明神の利生は旗の竿にありけり」の句を献上し、社殿の改修、社地の奉納をしている。それに応えて氏子が境内の笹の葉を守り札として秀吉軍に授け、武士たちはこれを兜や懐の中に奉じて陣中に赴いたと伝えられる。神社にはこの故事を偲ぶ竹筒を模したモニュメントが建っている。お目当ての「スギ 幹周 5m、樹高

35m」は神社裏手の駐車場脇に、凛とした姿で屹立していた。「ケヤキ 幹周 5.1m、樹高 27m、樹齢推定 600 年」があったのを帰宅して気が付いたが、後の祭りで次の機会には是非にも訪ねてみたい。

⑧米原市^{すいじょう}春照の八幡神社 スギ 幹周 6m

杉澤から旧北国脇往還、国道 365 号を西進し、伊吹山登山口近くの春照八幡神社にたどり着くが、目的の幹周 6m のスギ巨木はもう何年も前に枯死したらしく、古い切り株が残っているだけであった。春照八幡神社の 9 月の秋祭りは、北国脇往還を行き来する大名行列を模倣した奴振りが先導する太鼓踊りが有名らしい。奴さんの腹に絵を書くというのが、他の祭りの奴振りには見られない特徴となっているという。数十人が太鼓・鐘を打ち鳴らし、山伏、寺社奉行、大うちわが加わり踊り舞うという勇壮なもので、一度見たいものだが 5 年に一度しか開催されないという。

⑨米原市西山の王街道塚古墳 ケヤキ 幹周 8m、樹齢 300 年以上 滋賀県指定自然記念物

春照から県道 248 号（天満一色線－王街道ともいう）を南下、新幹線ガード手前にある。王街道塚古墳そのものは墳丘も既に無く、敷地には小祠と「王街道塚古墳」と刻まれた小さな石柱が建っている。ケヤキの外観はかなり損傷しあちこちに大きな穴が開いて、ごつごつとした奇怪な形状を呈し、中心には大きな空洞が開いている。しかし樹勢はすこぶる旺盛で枝葉は青々と茂って不思議な景観を見せている。戦国時代からの人々の自然に則した生き様と、近代景観のシンボル新幹線を今に見ているという、幾百年を生き抜いてきた古木の生命力の不思議さを改めて感じたものである。



王街道古墳のケヤキ

⑩米原市池下の不動尊 スギ 幹周 8m、樹高 30m、樹齢 300 年以上

王街道塚古墳を出て王街道を北上、「グリーンパーク山東」に左折、水鳥の群れ遊ぶ三島池を左に見て池の南側に回り込むと、本日の最後の訪問地「不動尊」のスギである。扁額も「不動尊」である。堂の傍に少し斜しいではいるが、下部の 15m 程は枝葉が無くすっきりと直立している。さすが幹周 8m というのでかくて、伊吹山をバックに見栄えの良い巨木である。帰途のオプショで醒ヶ井地蔵川の「梅花藻」に立ち寄る。ちょうど開花期に当たるのか、小さな可憐な花が清流に揺らぐ様は見飽きず、今ひとつ満たされぬ思いの本日の巨木探訪であったが、最期になんとも癒される時間を過ごすことが出来た。

※滋賀県の湖東、湖北地方には村の出入口の要となる場所に、「野神さん」と呼ばれる多くはケヤキ等の巨木があり、注連縄が張られ、土地を守る神が宿る神聖な場所として大事に祀られ親しまれている。

四条大宮 8:30 ⇒ 京都東 IC 9:05 ⇒ 関ヶ原 IC 10:25 ⇒ 八幡神社 10:30 ⇒ 春日神社 10:45 ⇒ 今須八幡宮 11:05 ⇒ 貝戸天満宮 11:15 ⇒ 梓河内八幡神社 11:40 ⇒ 梓河内神明神社 12:00 ⇒ 梓河内八幡神社 12:15 ~ 50 ⇒ 北畠具行墓所迷走 13:00 ~ 30 ⇒ 清滝神社 13:40 ⇒ 勝居神社 13:55 ⇒ 春照八幡神社 14:15 ⇒ 王街道塚古墳 14:25 ⇒ 不動尊 14:45 ⇒ 醒ヶ井地蔵川 15:00 ~ 15:20 ⇒ 米原 IC 15:30 ⇒ 四条大宮 16:50

実施日：2022 年 9 月 29 日（木）

参加者：山村孝夫（L）、中川 寛、
方山宗子、上野陽子、岡田茂久

山のスケッチ

金勝アルプス天狗岩

山田和男

今回のスケッチは天気心配をすることもなく安心して天気予報を見ることができた。また防寒着の準備もしたが陽射しは強く暑く感じるほどだった。

9 時半に道の駅「こんぜの里りっとう」に京都から私の車で 3 人、瀬田から諏訪在住の松田先生を乗せて宇都宮様が、そして松下支部長が集合した。ここより車で山道に入り金勝寺の駐車場を通り越し馬頭観音堂前の横ヶ峯展望所の駐車場に車を止める。我々以外に

先行者の車が来ている事に驚いた。ここからは三上山、競馬のトレセンが展望できた。

歩き始めて約束の 20 分、竜王山の山頂下まで来たが木が茂ったため岩がよく見えない。3 人が山頂へ行く間休憩する。ここから砂岩の下りを行く、摩崖仏への分岐点をすぎ耳岩へ少し下った岩を展望できる所で終了時間を 12 時と決めスケッチを始めた。今回のスケッチは山でなく目の前にある岩、遠くの岩、下方に見える岩を俯瞰して描いている人もいる。それぞれに違った角度で描かれているので出来上がりが楽しみである。

スケッチを終わりアップダウンの繰り返し、土が流れ段差のきつい横木（コンクリートの）等が多く山のスケッチでは久しぶりの山歩きに年老いた私には堪えました。やっとこさ喘ぎながら駐車場まで歩き、道の駅まで下山し、道の駅で名物とされている「シシ井」を食べた。

午後、駐車場の上にある「滋賀日産リーフの森」の東屋で先生によるご指導が始まる。俯瞰図での遠近、岩肌の模様、影の描き方、いままで何度も指導してもらっているが難しい。やはりこの場だけで描くのではなく日頃から筆を持つ習慣が必要と毎度同じ反省をしました。

ここからは琵琶湖、三上山が、紅葉し始めた樹々が美しかった。

実施日：2022 年 10 月 13 日（木）

参加者：松田敏男（講師）、松下征文、中川 寛、
宇都宮道人、上野陽子、山田和男

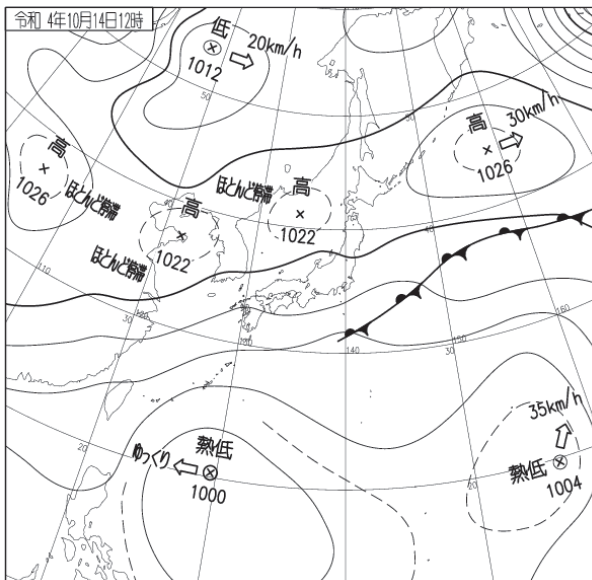
未知の山旅シリーズ 第 11 回

会津の山

笠谷 茂

2022 年度秋の未知の山旅シリーズは、行先を会津、越後方面としりベンジの山を含め目標の山（二岐山、三本槍岳、荒海山、浅草岳）を選定した。

期間前半は日本海北部に帯状の高気圧が停滞しその南側では太平洋側からの東風の影響で、分水嶺に沿った山頂付近では雲が湧く状況が続いた。最終日は前線が近づき降雨予報となり予定を変更したが、静かで懐かしさが漂う会津の山を実感することができた。費用 6.0 万円 / 人（宿泊、移動）。



10月14日の天気図（日本海北部に高気圧が停滞）

<予定ルート>

- 10月13日：移動（京都・滋賀⇒会津、湯野上温泉）
 10月14日：湯野上温泉⇒二岐山（御鍋神社登山口から男岳往復、L：笠谷）⇒うさぎの森（泊）
 10月15日：うさぎの森⇒三本槍岳（ヨロイ沢駐車場→鏡が沼→三本槍岳→大峠→ヨロイ沢駐車場、L：笠谷）⇒うさぎの森（泊）
 10月16日：うさぎの森⇒荒海山（八総鉦山跡から往復、L：笠谷）⇒奥会津ただみの森（泊）
 10月17日：奥会津ただみの森⇒浅草岳（ネズモチ平から周回、L：笠谷）⇒奥会津ただみの森（泊）
 10月18日：移動（奥会津ただみの森⇒滋賀・京都）

<天候などを考慮した予備ルート>

- 中山（南コース周回、L：竹下）
 御前ヶ岳（畑小屋登山口から往復、L：竹下）
 唐倉山（登山口から周回、L：竹下）
 要害山（只見駅から周回、L：竹下）
 以下、実際の行動を紹介する。

10月13日（移動）：京都・滋賀⇒会津、湯野上温泉（民泊）

今回は東向きなので京都発。移動距離が長いので前日にレンタカーを借り早朝発。名神高速道路黒丸PAでメンバー全員が合流。7時30分出発。北陸道、磐越道を通り会津若松ICから国道121号線（日光街道）にて湯野上温泉へ。16時、露天風呂のある民宿「山形屋」到着。入浴（弱アルカリ性単純泉）後、郷土料理に舌鼓。

10月14日（二岐山）：湯野上温泉⇒御鍋神社登山口⇒二岐山（往復）⇒うさぎの森（コテージ泊）

山形屋で朝食をとり出発する（8時30分）。二岐温

泉を過ぎると道はダートとなる。御鍋神社登山口着（9時7分）。直立したブナ林に囲まれた林道ゲート前に車を止め、準備をして出発（9時25分）。色づき始めた木々の上には青空が顔を出している。歩き始めると早速急登が待っており、「八丁坂」の標識が迎えてくれる。次の急登は「あすなろ坂」、その先で胴回り6m程の巨木が現れる。この坂を登りきると「ブナ平」と名づけられた直立するブナが立ち並ぶ平坦な場所に出る。林道跡と思われる広い道となり・1289を右手に巻くと錦に色づき始めた二岐山のピークが顔を出す。足元が湿った登山道を進むと標高差250mの急登「男坂」だ。頂上肩に出ると展望が開け、後方に色づき始めた那須連山が大きく迫る。11時30分頂上（1544.3m）着。高気圧の南の縁にあたり稜線上は雲が湧きその隙間からの展望となった。

12時45分発。14時16分、御鍋神社駐車場着（下山）。南会津町の宿泊施設「会津山村道場うさぎの森」へ向かう途中「大内宿」と「塔のへつり」に立ち寄った。南会津町のコンビニで食材を調達し、うさぎの森へ（16時30分着）。



ブナ平

10月15日（三本槍岳）：うさぎの森⇒ヨロイ沢駐車場登山口⇒鏡が沼⇒三本槍岳⇒大峠⇒ヨロイ沢駐車場⇒うさぎの森（コテージ泊）

うさぎの森7時発。ヨロイ沢手前に車止めがあり、その手前の駐車スペースに駐車（8時着）。前日の二岐山登山口より標高が高く、紅葉は一段進んでいる。出発（8時10分）し大峠への古道（会津中街道：戊辰戦争では西軍が会津へ進入した）を行く。鏡沼分岐から登山道に入る。カラマツが林立する中、笹を広く切り開いたよく整備された道だ。黄色に色づき始めたダケカンバの樹林が現れ、沢筋を登ると爆裂火口底の平地となり、笹原の周囲に屏風のような錦色に染まる火口壁が迎えてくれる。火口湖の鏡沼9時35分着。正面の須立山が錦衣をまとい湖面に映る。標高差120mの火口壁を一気に登り中央分水嶺上に位置する稜線分岐10時8分着。稜線上は風があり上着を着て出発。山稜に

まといつく雲は上下を繰り返す。笹と灌木が広がる稜線からは頂上が見え隠れする。一等三角点を有する三本槍岳頂上（1916.9m）11時20分着。栃木県側からの入山者が次々到着し山頂は多くの登山者が集っていた。静かな会津側へ出発（11時40分）。大峠分岐から鏡沼の爆裂火口壁上の尾根（中央分水嶺）を下る。ここからの那須連峰西面の紅葉は圧巻だった。大峠13時15分。いにしえより人々が行き交った峠には何体もの地藏様が鎮座していた。会津中街道跡を辿り、駐車場14時20分（下山）。二岐山の遠景を見に行くが山頂に雲があり引き返す。南会津町のスーパーで食材を買い足し、うさぎの森着。



大峠

10月16日（荒海山）：うさぎの森⇒八総鉾山跡⇒荒海山（往復）⇒奥会津ただみの森（コテージ泊）

日本海北部の高気圧は太平洋へ進んだが、その南の縁である状態は変わらず昨日までと同様の天気予測される中、うさぎの森を7時35分出発。八総鉾山跡駐車場8時5分着。8時15分出発。鉾山跡の林道を進む。本ルートは2015年9月の豪雨で二股（950m付近）までであった林道が流失し、昨年（2021年）夏に登山道が開通したもの。二股までは断片的に残る林道跡を結ぶ登山道を新しい標識に従って進む。二股から沢沿いに進むと崩壊により埋まった堰止湖がありその先で枝尾根に取りつく。固定ロープが幾つかある急登だ。尾根鞍部10時00分着。ブナとアスナロが林立する尾根道を進む。尾根は1251を過ぎると次第に細くなり、アップダウンを繰り返す。最終の鞍部から先は更に急登でかつ鎖場のトラバースなどもある。肩（1520m）付近で素晴らしい展望が開けるが、瞬く間に雲がおりてくる。荒廃した避難小屋を過ぎると阿賀野川源流の標がある荒海山頂上（1581m）だ（12時50分）。三角点ピーク（1580.5m）へは藪漕ぎ5分。13時20分出発。往路を足元に注意しながら下る。稜線鞍部15時10分着。八総鉾山跡駐車場16時20分（下山）。

18時奥会津ただみの森コテージ着。翌日の天気は前線の接近により曇りから昼前には雨の予報。浅草岳へ

の登山は中止し、早めの行動で予備の山として計画している要害山に登ることを決める。



荒海山

10月17日（要害山）：奥会津ただみの森⇒只見駅⇒要害山⇒只見駅⇒奥会津ただみの森

曇り空のもと7時にコテージを出発。只見駅前に駐車。10月1日の只見線全線復旧もあり観光客もチラホラ。「おかえり只見線」と記されたのぼりがなびいていた。7時15分出発。山麓の三石神社に立ち寄り、スキー場から尾根に取りつく。雲は低く途中からガスの中となる。ヒメコマツの群生をすぎ痩せた尾根を登ると電波塔が現れる。別の電波塔を越えブナ林の中の作業林道を50mほど進んだ分岐の先が最高点（705m）でここにも電波塔がある（8時57分）。頂上標識は最初の電波塔の南側（下山路との分岐）にあるので戻る（9時2分）。記念撮影後9時15分出発。高度を下げると雲の下となり只見の町が眼下に広がる。4年前に登った蒲生岳（会津のマッターホルン）も見えてくる。10時8分只見駅（下山）。温泉「季の郷湯ら里」で汗を流し、買い出し後コテージに戻り乾杯。



要害山の下山路から只見の町を見下ろす

10月18日（移動）：奥会津ただみの森⇒滋賀・京都

荷物をまとめ7時45分出発。豊田飯山ICから信越

道に入り、中央道経由で黒丸 PA に戻り（17 時）、順次解散。今回の山旅は終了した（翌日レンタカーを返却）。

実施日：2022 年 10 月 13 日（木）～ 18 日（火）

参加者：笠谷 茂（PL）、関本俊雄、竹下節子

PL：Planning Leader（日程管理など山行全体のマネジメント）

近畿 2 府 4 県の低山一等三角点を登る山行第 4 回

たねじやま
京都府 多祢寺山（556.25m）

点名：多祢寺山

仲井照雄

午前 6 時半に自宅を出発する。外はやや寒く感じ、上空は青空が広がり比良山系が頂上まで良く見えている。天気予報は、午後でも晴れが続くが、夜から明日にかけて雨になるという。JR 湖西線堅田駅から、午前 6 時 53 分発の京都行きの普通に乗車した。午前 8 時、JR 京都駅八条口「都ホテル京都八条」前に全員集合する。

本日のリーダー大槻氏から多祢寺山までの行程の説明があり、リーダーの車にて出発する。車は順調に進み、沓掛 IC → 京都縦貫自動車道 → 舞鶴東 IC と進む。丹波山中で雲が立ちこめる。舞鶴湾が見えてきた。入り組んでおり全く波がなく湖のようだ。

午前 10 時。海沿いに海上自衛隊・舞鶴引揚記念館を過ぎ、多祢寺駐車場に到着する。リーダーから、国土地理院地形図（1/25000、丹波由良・西舞鶴）と「一等三角点の記」の資料が全員に配付され、山行計画書に基づき、本日登る一等三角点多祢寺山の往復コースの説明がされた。また、山に登る心がけとして【ひとつの山に 3 回登ること】を話された。すなわち 1 回目は自分の目で山を調べ、登山計画書の紙の上で登ること。2 回目は実際にその山を登り、体で色々と感じる。3 回目は下山後、山行の記録を書くことによって山を登ること。これで山が記憶に残り明確になる。と話された。

午前 10 時 20 分。登山口（約 280m）を出発する。好天に恵まれ寒さを感じない。稜線に平行して、なだらかな道が西方面に続く。石に躓くようなことはなく、良く整備されていて歩きやすい。この辺りは手のひら 2～3 倍位の大きな落ち葉が見られるが、リーダーによると「朴ノ木の葉」という。所々、地蔵が鎮座している。木札の「25 番 津寺」「32 番 禅師清寺」の前を通過する。暑くなり汗ばんできたので、水分補給をする。

午前 10 時 40 分。分岐点（403m）に到着。地図と GPS で現在位置を確認する。午前 11 時 15 分、東まわりコースとの分岐（506m）に到着。水分補給し、地図と磁石と GPS で現在位置を確認する。ここから稜線を直登するが、等高線の間隔が広くきつい登りではない。

午前 11 時 30 分。多祢寺山（556.3m）山頂に到着。晴天に恵まれ 360 度良く見える。東方面に青葉山、北方面から西方面にかけて若狭湾や冠島か？ 南方面の舞鶴クレインブリッジと視界良好。写真を撮る。リーダーより、配布資料一等三角点「点の記」に基づき説明を受ける。天測点と子午線標と対で、一等三角点の位置確認をする。観測は、夜間観測機器と子午線標の灯火を見て、北極星を 0 度として一等三角点の角度観測をするという。初めて聞いた話である。再度、一等三角点と天測点と砲台跡を写真に撮る。山頂は広く芝に覆われ、鹿の糞があちこちに散在している。海がよく見えるベンチと長椅子があり、ここで昼食休憩をする。登山口からここまで他の登山者に出会わず、山頂は貸切りである。

午後 0 時 30 分。下山開始、下りは周回コースを採る。午後 1 時 10 分、分岐点（440m）に到着。登りと異なるコースとなる。リーダーより、地図上の任意の場所に磁石を置き、地図と磁石の北を一致させるよう教えてもらう。さらに GPS で現在位置を確認すると、下山方向は正しい。なだらかな道をさらに歩き続ける。午後 1 時 40 分無事、登山口に戻る。多祢寺の本堂にお参りして車に乗る。

終日、穏やかな天気にも恵まれて、帰りは舞鶴クレインブリッジを渡り、赤レンガ倉庫でコーヒーを飲み山行の疲れを癒やした。

実施日：2022 年 10 月 16 日（日）

参加者：大槻雅弘（L）、中川 寛、能田直子、
大倉寛治郎、山崎 泉、仲井照雄、
（友の会）藤網珠代

巨木探訪シリーズ 10 月例会

越前勝山 白山神社の巨木

岡田茂久

福井県勝山市への巨木探訪である。

巨木探訪シリーズでは、2018 年 8 月に勝山市岩屋観音に福井県最大の「大スギ」と、加越国境の国道 157 号の谷トンネルを抜け、国土地理院地形図 1/25000 にも記されている白山市太田の「大トチ」まで長駆して

いる。2019年9月には勝山市西光寺に幹周囲9mの「大スギ」、国指定天然記念物である「大ケヤキ」を大野の専福寺に訪ねた。そして今年の4月には勝山の名利白山神社平泉寺を訪ねて、今回でこの方面は4回目となる。

四条大宮を8:30出発、安曇川筋から国道303号に入り道の駅「追坂峠」で昼食を調達(10:25～10:35)。国道8号を経て敦賀から北陸道高速道路に入り、福井北ICから現行は無料の中部縦貫高速道路(国道158号・通称永平寺大野道路)に入り、勝山ICで降りる(11:50)。えちぜん鉄道勝山永平寺線のガードを潜り、九頭竜川に架かる幅広の立派な「勝山恐竜橋」を渡る(12:00)。橋を渡ったところの大きな恐竜のモニュメントが橋名の由来らしい。

「勝山恐竜橋」からは、正面に加越国境の山々が望める。稜線が横平山(1093.5m)から左下がり、鞍部に至ると、国道416号が山中温泉に越える大日峠。峠からは急傾斜に稜線が駆け上がり、裾に岸壁を巡らした越前甲(1319.7m)から大日岳(1368m)。崩落跡が目立つ加賀甲(1135.5m)を経て浄法寺山へと繋がる。右手にも取立山(1307.3m)からの赤兎山への加越国境の大パノラマが広がっている。手前の法恩寺山(1356.3m)は、スキージャンプ勝山の滑降コースが大きな傷跡のように痛々しい。

今日の第一目標は勝山市荒土町細野の「白山神社」である。大日峠へ向かう国道416号に誤進入し遠回りしたが、途中の県道112号から荒土町細野に入る。細野地区の一番奥にある新道集落の神社マークを目標に向かったのだが、小さな社の屋根が見えるのに進入路が判らず、やっと到達したものの幹周囲7.2mのスギの片鱗も見つからず、細野地区入り口まで引き返す(12:15～12:30)。

途中にある同名の白山神社二社にも巨木らしきものは見当たらず、念のため細野口の白山神社も訪ねるが、巨木とは言えないスギが数本存在するのみであった(12:35～12:45)。

後日に調べてみたが、勝山市の神社総数70数社の内で、白山神社は40社余り、北陸の都市のうち特に勝山市近辺では、「白山神社」とだけ尋ねてもまず到達できない。江戸の町の稲荷どころでなく、地区毎、集落毎に祀られている様である。

次いで同じ荒土町の布市にある「少彦名神社」向かう。ただ広い境内の「少彦名神社」は、幹周囲4～5mのスギ8、9本のみが社屋を囲み、それ以外の植生は全く無いに等しく、なんとも殺風景な神社であった(12:45～12:55)。

次に向かったのは村岡町寺尾の「白山神社」。「村岡城址」のある御立山(301.0m)東山麓に位置する。境内の幹周囲6.7mのスギであるが、直幹では無く地表か

ら1m程度で3本に幹分れしており、見る方向で3本になり2本になる。それなりに巨木であるが残念なところでもある。傍に建つ立派な自然石の石灯籠は見ごたえがあった。神社境内からは対面する丘陵の梢越しに、「福井県立恐竜博物館」の銀色に輝くドームが覗いている。ここで昼食(13:05～13:35)。

昼食の後、国道157号の暮見トンネルを抜け、勝山市野向町薬師神谷の「白山神社」に、勝山市天然記念物の幹周囲7.3mのイチョウと幹周囲5.8mの大スギを訪ねる。薬師神谷の白山神社は県道に面し、境内も広く一段高く石垣が積まれている。石段の脇に勝山市文化財「薬師の大いちょう」の立て看板があり、鳥居の右に大スギ、左に大スギと同じくらいの大スギの太さの大イチョウが見える。看板にある幹径7.3mのイチョウは、これとは別に本殿の脇に鎮座していた。傍の立札には「樹齢500年、樹高20m、幹径7.7m、地上2mより6本の枝に分れている」とあった。

このイチョウもそれなりに立派であったが、それよりも鳥居脇の大スギと大イチョウが存在感を誇示していた。

神社前にはコスモス畑が広がっており、不完全燃焼気味の今日の巨木巡りであったが、秋の柔らかな日差しに優しく揺れていたのが疲れを癒してくれた(13:40～13:50)。



薬師神谷の白山神社のイチョウ



薬師神谷の白山神社の鳥居脇

往路を帰京したが日も短くなり昏くなる寸前、四条大宮で17:30であった。長距離の遠征お疲れさまでした。

実施日：2022年10月28日（金）

参加者：山村孝夫、柏木俊二、方山宗子、岡田茂久

日本山岳会岐阜支部 創立 50 周年記念式典

記念山行猪臥山 (1518.8m)

大倉寛治郎

岐阜支部創立 50 周年記念式典が 10 月 23 日（日）～24 日（月）に開催された。23 日は「ひだプラザホテル」（岐阜県高山市）で記念式典、山岳講演会及び懇親会が行われ、24 日は記念山行（猪臥山）がコロナ禍で延期されていた五支部交流山行も兼ねて実施された。

記念式典では、岐阜支部長、来賓（日本山岳会古野会長、橋本副会長、萩原常務理事）のあいさつに続き記念誌「日本山岳会岐阜支部 50 年の歩み」を元に今西先生のエピソードを交えた支部の歩みが紹介された。記念講演は萩原浩司氏（山と溪谷社取締役山岳出版本部長、日本山岳会常務理事）による演題「岐阜県の山の魅力～笠ヶ岳に学んだこと～」が一般市民の聴講者を交え行われた。懇親会ではシンガーソングライターのリピート山中氏が登壇し、山の歌等で会場を盛り上げた。

記念山行の猪臥山は岐阜県河合村と大野郡清見村との境にある秀峰。二等三角点が設置されている。点名「池本山」。点の記の所在地は岐阜県大野郡清見村大字二本木字彦谷山 757 番地・清見村大字池本字檜木平 1675-1 番地。コースは一般ルートとらくらくルートのふたつが準備された。

(1) 一般ルート：猪臥山トンネル入り口駐車場からピストン

距離：8km、標高差：520m、歩行時間：2 時間 45 分

(2) らくらくルート：山頂直下駐車場まで車移動

距離：往復 600m、標高差：50m、時間：往路 20 分、復路 15 分。

24 日（月）午前 8 時 20 分、ホテルロビーに 65 名が集合して、ふたつのコースに分かれ用意されたバスと自家用車に分乗してそれぞれの登山口に向かう（8 時 30 分出発）。京都・滋賀支部からは 9 名が参加した。

私は (1) の一般ルートに参加した。松下支部長の自家用車に笠谷副支部長と同乗させていただいた。ホテルを出発するバスの後には走り続けると、やがて登山スタートとなる猪臥山トンネル手前の駐車場に着いた（9 時 5

分）。班ごとに分かれて出発する（9 時 15 分）。天候も回復し紅葉や落葉のじゅうたんが爽やかな青空に映えて最高の雰囲気の中彦谷林道を 2km ほど進むとやがて林道終点に到着する（9 時 50 分）。

小休止後谷川を渡り少し行くと右にある木に猪臥山登山道の標識がかかっていて「猪臥山登山道山頂まで 1.5km」とある。混生林の開けた尾根を登ると熊笹の葉っぱに機関銃であけた様な穴が在り、同行の人に尋ねると「葉っぱが丸まっている時に虫が入り葉を食べて開くと等間隔に穴が空いている」のだと教えていただく。会話も弾み登る尾根も苦にならない。

縦走路分岐標識があり、「頂上まで 500m」と書かれてあり頂上はもう一息だ。尾根筋を行くと視界も開けてきて飛騨の山々も展望できる。頂上手前のピークには祠山之神がある。(2) のらくらくルート班のお出迎えを受けて二等三角点が鎮座する猪臥山に到着（11 時 5 分）。見渡す限り、360 度大展望に大満足でした。

山頂では、参加者の記念撮影、リピート山中氏の演奏、歓迎の虹も見られて、皆さんとの交流が出来た。弁当も美味しくいただき、山頂は JAC の皆さんの歓声であふれていた。

12 時 30 分、下山開始。往路を駐車場に戻る（13 時 55 分着）。バス組の皆様を見送り帰路に着く。岐阜支部関係各位、同行の皆様、ありがとうございました。

参加者：松下征文、中川 寛、笠谷 茂、幣内規男、
伊原哲士、関本俊雄、大倉寛治郎、林 一夫、
伊藤禎洋



猪臥山をあとに

図 書 紹 介

『単独行』（加藤文太郎著）

笠谷 茂

加藤文太郎（かとう・ぶんたろう）は、1905（明治38）年兵庫県浜坂町に生まれた。「単独行の加藤」、「不死身の加藤」、「国宝的な山の猛者」と名を馳せたが、1936（昭和11）年1月、北鎌尾根で不帰の人となる。

『単独行』は加藤文太郎の遺稿集である。加藤文太郎をよく知る藤木九三（RCC創設者）の序文「生まれながらの単独行者」、遠山豊三郎（会社の上司）、島田真之介（好日山荘神戸店開業者、BKV主宰）の「後記」は、加藤文太郎の“人”を知るうえで貴重な文章となっており、この本の中で加藤文太郎が生きている。その誕生は、加藤文太郎の『RCC報告』や山岳雑誌『ケルン』への寄稿文に幾つかの未発表の文章を加え、1936年8月に津田周二（RCC設立メンバー、元JAC関西支部長）が発行者となり、加藤文太郎遺稿集刊行会（48名、3団体）が発行所となった『単独行』（加藤文太郎遺稿集、以下：私家版）で、遭難の捜索に掛かるカンパで集まった資金の余りにより限定200部が印刷され、捜索に協力された人々にそのお礼として配布されたものである。

商業出版物としては、1941年8月に私家版を底本として朋文堂より未発表の記録など加え『単独行』（加藤文太郎著、以下：朋文堂版）が出版され、広く世に知られるようになる。この編集後記で高須茂（登山家、民族学者）は、出版経緯として加藤文太郎の業績が一般に認識され私家版の入手希望者が増える中、藤木九三の応援を得て島田真之介らが公刊を議し、遠山豊三郎を通じて刊行会の津田周二の承諾を得て上梓に至ったと述べている。一方、内容に関しては公刊という立場から編集もかなり趣を変え、軍規保護法による内容の削除その他（三角点の記述改変等）やむを得ざるところがあったとしている。

朋文堂版の内容は、1962年12月にあかね書房より発刊された日本山岳名著全集6に、細井吉造の「伊那谷・木曾谷」、松井幹雄の「霧の旅」と合わせて斎藤一男（山学同志会創設者、元日本山岳協会会長、著書多数）の解説を付けて掲載されている。この本には、遠山豊三郎、島田真之介の「後記」に加えて、「夫・文太郎の思い出」と題し加藤花子の手記が掲載されていることは特筆に値する。

1966年11月には二見書房からThe mountains:8と

して『単独行／風雪のビバーク』（加藤文太郎、松濤明著）が安川茂雄（登山家、編集者、作家）の解説を付けて発行される。この中で『単独行』は文章を時系列に並べ替えられている。その後、1970年9月に二見書房から山岳名著シリーズとして『単独行』（加藤文太郎著、以下：二見版）が刊行される。

2000年4月、山と溪谷社よりヤマケイクラシックスシリーズの1冊として『新編 単独行』が私家版を底本として朋文堂版を参照し、朋文堂版から3編、『不撓不屈の岳人 加藤文太郎の追憶』（1970年7月、加藤文太郎記念碑建設委員会編）から1編を追記、福島功男（登山家、編集者、JAC会員）の解説文を挿入し刊行される。そして2010年11月にヤマケイ文庫として文庫化。私家版発刊から86年経過した現在も書店で新刊として入手できる。

筆者が加藤文太郎を知ったのは1977年、高校1年生（15歳）のころ。兵庫県立西宮北高校で山岳部（六甲山系がホームグラウンドだった）に在籍し、夏山合宿で初めて北アルプスを訪れ山の魅力にはまりゆくころ。知らないことだらけの中、地元ゆかりの偉大な登山家の存在を知り、小説『孤高の人』（新田次郎著、1969年6月、新潮社）を手にとった。

加藤文太郎は筆者と同じ年齢のころに六甲山系を起点に山と出会い、一步一步レベルを上げていき社会人登山家として成長し、単独行により高みを目指して山行を重ねていく。そして30歳の若さでパーティーを組んだ仲間（宮村健）と共に北鎌尾根で逝くという悲しい結末。『孤高の人』の巻末に新田次郎は、「加藤文太郎は実名である。未亡人の花子さんからぜひ実名にと言われたのでそのようにした。本人とは富士山測候所に勤務中に一度会ったことがある。参考文献としては加藤文太郎著『単独行』を使わせていただいた。」と記している。

加藤文太郎の著作『単独行』には何が書かれているのだろうか。早速、書店に並ぶ二見版（時系列で記載）を購入した。読み進む中で、「北アルプス初登山」（1926年9月）ではその驚異的な体力と行動力にただ驚き、「山に登るAの苦しみ」（1928年11月）では、弱さを誠実に表す人間らしさを感じた。そして、「飛躍を伴わない単独行」を謙虚に愚直に実施して成長する姿に感銘を受けた。一方、北鎌尾根での遭難（1936年1月）に近付く過程で、「単独行について」（1934年12月）、「穂高にて」（1935年7月）の記載での、加藤文太郎の山に対する意識の変化には高校生なりに不自然さを感じた。そして『孤高の人』はフィクションであるが、山行の多くが『単独行』に基づくものであることは理解できた。パートナー（吉田富久：『孤高の人』宮村健のモデル）との関係は、新田次郎が描いた世界とは違う

ことは明らかだった。遠山豊三郎の「後記」にある10代のころ（～1925年）の国道リレーや六甲全山縦走等のエピソードには同年代であり身近さを感じた。

悲しいかな、冬山も経験したことがない15歳。高校生の知識、感受性、浅い経験の中で加藤文太郎の実像には迫り切れていなかったが、少しでも実像に近付きたいと思った。筆者は16歳のころ、ひとつの行動として六甲全山縦走周回（約100km）にトライし、17時間40分で歩けたのは今でも大切な思い出となっている。偉大な先人の背中が見える本、行動変容を促す力を秘めている本なのだ。兵庫県出身の植村直己（登山家、冒険家）が大きな影響を受けたことは有名だ。

高校卒業後も加藤文太郎への敬愛の念は変わらず、加藤文太郎が登った山へ行った時には特別な高揚感を持ち、加藤文太郎について記されたものへの興味は尽きなかった。

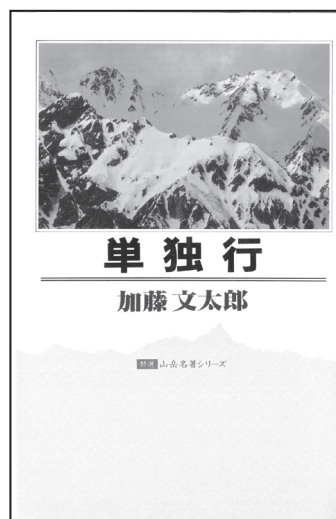
谷甲州の小説『単独行者（アラインゲンガー） 新・加藤文太郎伝』（2010年9月、山と溪谷社）が出版されると早速購入した。この本は、作者が加藤文太郎そのものの描きたく執筆したもので、遭難時のパートナーにも着目し吉田富久が在籍した山岳会（関西徒歩会）の機関誌『ペデスツリヤン』も参考文献になっている。『孤高の人』で感じたパートナーとの関係への違和感はなく、加藤文太郎を取り巻くリアルな状況表現に感銘を受けた。谷甲州はそのあとがきで、加藤文太郎の物語を書こうと心に決めた理由として『単独行』に触れ、「はじめて手にしたのは、二十代の前半だった。ちょうど我流で冬山をはじめ、勤務の都合などから単独行を繰り返していた時期と重なっている。そのため『単独行』の文章が、心に染みこんできたのを記憶している。常人ばなれした体力で独創的な記録を次々に残しながら、人間的な弱さを隠そうとしない誠実さにひかれたのかもしれない。」と記している。谷甲州も加藤文太郎を敬愛し『単独行』を元に実名小説を書きあげている。

ヤマケイ文庫版が発行（2010年11月）され、『新編単独行』を手にとった。高校を卒業し30年を超える年月が流れて、齢を重ね、多くの山に登り、経験を積み、情景が以前より見えるようになっていた。加藤文太郎は良き仲間にも囲まれ成長した。その源泉は、加藤自身の誠実さと情熱溢れる人柄であること。文章表現力の向上の背景に勤勉さがあったのに加え、良き仲間（ヤマケイ文庫版において伊藤愿を通じたAACKとの接点が解説されているのは興味深い）がいたこと。遭難直前の加藤文太郎の山に対する意識の変化の不自然さとは何か。などなど。改めて読むことで気付きがあり味わいが増してきた。

佐谷健吉（登山家、JAC会員）は「加藤文太郎氏の単独行」（『山』160号、1949年7月号、朋友堂）にお

いて以下のように評している。「氏は、我が国のアルピニズムの歴史に於いて清く孤独に輝く一つの星、旅人に行く手を指すべく極北に孤高に輝く星なのであった。」そんな加藤文太郎が生きているのが『単独行』であり、『単独行』も進化を続けている。

加藤文太郎が『単独行』を通して、多くの岳人の中に生き続けてほしい。（文中敬称略）



『単独行』二見版



『新編 単独行』ヤマケイ文庫

自己紹介欄

◎笹原祐真 (No.16970)

このたび入会いたしました笹原祐真と申します。昨年11月から登山を始め、低山の雪山、一般縦走、沢登り等をやっていましたが、厳冬期のアルプス縦走、ロープを使用した登攀をしたいと考えて入会させていただきました。会では安全に登山ができるようにレスキュー技術等も学びたいと考えております。また登山仲間も作り、チームで山を登り、困難な状況でも協力し乗り越えたいと考えております。将来的には技術、知識を身につけて指導し、多くの人に登山に興味を持ってもらいたいと考えております。技術、知識とも未熟ですが、精一杯頑張りますので何卒よろしくお願いいたします。

◎井川雅喜 (No.A0468)

この度、入会させていただいた井川雅喜と申します。今までソロでの山行ばかりで、登山技術は本や雑誌からの情報しかありませんでした。しかし、独学での登山技術の上達に限界があります。登山技術と登山経験が豊富な先輩方にいろいろと教えて頂き、安全な登山が出来る様になりたいと思い、入会させていただきました。よろしくお願い致します。

◎池ノ内直樹 (No.A0476)

日本山岳会に入会した動機

一人で山に行って山登りの楽しさや人生の共通する点に気づき、技術的なものから経験もないことから、山岳会に入りいろんなことを学びたいと思い入会いたしました。

これから登りたい山

富士山

山岳会で取り組みたい活動

山岳の技術と経験を活かし、山岳を通じてボランティア活動などしていきたいと思います。まだまだ登っていない山があるので、それらを山岳会で体験したいと考えております。

行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

日本山岳会京都・滋賀支部新年会

下記の日程で新型コロナウイルス等の感染対策を徹底した上で、支部の新年会を開催します。会員、友の会、会友の皆様はお忙しい頃と思いますが、是非、ご参加下さい。配偶者等の出席も歓迎です。出欠の連絡は、1月11日（水）までに同封のハガキ（63円切手を貼付下さい）もしくは下記の担当者までメール等をお願いします。今回は新年会のみとし酒類は控え気味に提供。オークションは中止します。

日 時：2023年1月18日（水） 午後6時30分から
午後8時まで。

場 所：南禅寺「順正」
京都市左京区南禅寺草川町 60
電話：075-761-2311

会 費：7000 円

申し込み、問い合わせ：

支部事務局
伊原哲士

令和 5 年初詣山行

新しい年も健康で良き山行が出来るよう三尾神社、三井寺に初詣に行きます。三尾神社は卯の年のご縁です。皆さん奮って参加してください。

日 時：2023年1月8日（日）小雨決行

行 程：JR 大津駅→長良公園→三尾神社→三井寺→
円満院→游々亭にて直会（会食費 3000 円、
飲み物付き）
直会の後、大津市歴史博物館、新羅善神堂、
三橋節子美術館（300 円）等に寄りましょう。

集 合：JR 大津駅前（びわこ側）9：00

内 容：ウサギの干支にちなんで三尾神社で初詣して
三井寺入山（火気の使用は厳禁です）。例年
の滋賀岳連やまっことの合同行事です

支部担当者：真名子栄一

申込締め切り：1月4日

申 込：真名子へ電話かメールで申し込んでください

北山探訪

◎井戸山 △ 671.3m（長子）

日 時：2023年1月10日（火）

集合場所・時間：参加者に連絡

行 程：道の駅ウッディ京北⇒山国亀甲橋⇒小野内容
→井戸山（Ⅲ長子）→往路下山

※積雪の状況によってコースを考えます。

地 形 図：1/25000 図「上弓削」

山行の目安：体力：2、技術：3

〔注〕 少々藪漕ぎあるかも

担当者・リーダー：八木 透

申 込：12月29日（木）までに所定事項記入の上、メー
ルで担当者まで

◎タカノス △ 653.8m（滝谷）

日 時：2023年3月25日（土）

集合場所・時間：参加者に連絡

行 程：細野口バス停→・591→タカノス（Ⅲ滝谷）
653.8→・582→田尻峠→廃村田尻→松尾峠
→朝日峯（Ⅲ梅畑）688.1：往復→谷山川→
高雄

地 形 図：1/25000 図「周山」、「京都西北部」

山行の目安：体力：3、技術：3

〔注〕 少々藪漕ぎあるかも

担当者・リーダー：笠谷 茂

申 込：3月14日（火）までに所定事項記入の上、メー
ルで担当者まで

健幸登山教室 11

日 時：2023 年 1 月 22 日（日）
 目的地：比叡山（大比叡）
 集 合：日吉大社石段下 8:30（京阪坂本駅より約 15 分）
 内 容：回峰行道本坂より山頂
 参加費：友の会 1000 円
 担当者：松下征文
 地形図：1/25000 図「京都東北部」
 申 込：山行申込書をメールで 1 月 15 日迄

健幸登山教室 12

日 時：2023 年 2 月 19 日（日）
 目的地：比良八雲ヶ原
 行 程：正面谷→金糞峠→八雲ヶ原→北比良峠→大山口
 集 合：イン谷口小屋前 7:00
 地形図：1/25000 図「比良山」
 内 容：雪山トレーニング 1
 山行の目安：体力 4、技術 3
 担当者：松下征文
 参加費：友の会 1000 円
 申 込：山行申込書をメールで 2 月 10 日迄

健幸登山教室 13

日 時：2023 年 3 月 19 日（日）
 目的地：御殿山より武奈が岳
 集 合：坊村駐車場 7:30
 地形図：1/25000 図「比良山」
 内 容：雪山トレーニング 2
 山行の目安：体力 4、技術 3
 担当者：松下征文
 参加費：友の会 1000 円
 申 込：山行申込書をメールで 3 月 5 日迄

健幸登山教室 2023-1

日 時：2023 年 4 月 16 日（日）
 目的地：堂満岳
 行 程：東稜→堂満岳→金糞峠→正面谷→イン谷口
 集 合：イン谷口小屋前 7:30
 地形図：1/25000 図「比良山」
 内 容：北アルプスに向けてボッカトレーニング
 山行の目安：体力 4、技術 2
 担当者：松下征文
 参加費：友の会 1000 円
 申 込：山行申込書をメールで 4 月 5 日迄

※健幸登山教室は参加率 7 割以上となるように努力して下さい。それ以下の場合には北アルプス等の計画には参加出来ません。日程、実施日等変更になることがあります。ホームページで確認をお願いします。

スキー例会

◎野麦峠

日 時：2023 年 2 月 21 日（土）～ 22 日（日）
 集 合：四条大宮嵐電前 午前 7 時 30 分
 行 先：野麦峠スキー場
 担当者：山村孝夫
 申 込：1 月 7 日（土）までに所定事項記入の上、葉書または電話で担当者まで。

スキー山行

◎若狭駒ヶ岳 △780.1m（寺山）

日 時：2023 年 2 月 25 日（土）
 集合場所・時間：道の駅「若狭熊川宿」、時間は参加者に連絡
 行 程：道の駅「若狭熊川宿」⇒河内川ダム（除雪末端）→・251→林道→東尾根→駒ヶ岳（往路下山）
 ※参加メンバー、積雪の状況によってコースを考えます。スノーシューでの参加も歓迎。
 地形図：1/25000 図「熊川」、「遠敷」、「古屋」、「饗庭野」
 山行の目安：体力：3、技術：3
 リーダー：須藤邦裕
 担当者：笠谷 茂
 申 込：2 月 10 日（金）までに所定事項記入の上、メールで担当者まで

歴史と文化の山旅

青春 18 切符で行く美作津山と岡山 の城めぐりの山旅

津山城は明治の廃城令により破却されました。現在は石垣が残ります。幕末の写真が残っており国宝の姫路城に匹敵する城でした。津山の鉄道記念館も訪ねたい。山城の備中松山城、大和朝廷の古代山城の鬼ノ城も訪ねたい。青春 18 切符で頑張りたいが、鬼ノ城は交通が不便なのでメンバーにより車も検討したい。

日 時：2023 年 3 月 18 日（土）～ 19 日（日）
 集合と行程：参加メンバーに詳細は連絡
 山行の目安：体力 2 技術 1 歩行時間 1 日約 4 時間
 申込の締切：宿泊予約の都合で 2 月 28 日（火）まで。
 申込・問い合わせ：
 伊原哲士

近畿2府4県の低山一等三角点を登る山行第6回

まないたしやま
大阪府俎石山 (419.87m)
点名：俎石山

この山行は、令和4年度新しく取り組んだ年間シリーズです。高齢の方も若い人も楽しく地図の原点である一等三角点を、2府4県を6回巡ります。初心者の方には、地図の勉強を兼ねて歩きます。今回は大阪府で最終回6回目です。珍しい山名。多くの方のご参加をお待ちしております。

日時：2023年3月12日（日）8時00分
集合：JR 京都駅八条口「都ホテル京都八条」（旧「新・都ホテル」）前
行程：JR 京都駅八条口 9:00 ⇒ 上鳥羽 IC ⇒ 阪和自動車道泉南 IC ⇒ 鳥取池登山口 9:45 → 11:20 俎石山一等三角点 → 井関峠 → 14:30 鳥取池 ⇒ 16:30 JR 京都駅八条口
地形図：1/25000 図「淡輪」
担当者：大槻雅弘
申込：3月6日（月）までに所定事項記入の上、FAX 又はメールで担当者まで。

山歩会例会

比叡山・裳立山

千日回峰行無動寺坂を登り、裳立山からの眺めを楽しむ
日時：2023年3月28日（火）
集合：京阪・坂本比叡山口駅 9時
行程：坂本比叡山口駅 ⇒ 無動寺坂登山口 ⇒ 裳立山分岐 ⇒ 無動寺明王堂 ⇒ 比叡山鉄道延暦寺駅 ⇒ 裳立山キャンプ場 ⇒ 紀貫之墓 ⇒ 日吉東照宮 ⇒ 坂本比叡山口駅
地形図：1/25000 図「京都東北部」「草津」
山行の目安：体力2、技術2
担当者：中川 寛
申込：3月21日（火）までに所定事項記入の上、FAX またはメールで担当者まで

会務報告 支部役員会

第439回支部役員会

2022年8月3日（水） 18:30～19:10 ZOOM 会議 出席：14名 欠席：14名

「報告」

7月に実施された近畿2府4県の低山一等三角点を登る・天壺山、巨木と山岳展望の旅・長野、岐阜方面、健康登山教室・針ノ木岳、北山探訪・ムシンボ、大文字山納涼山行について報告。

支部長・事務局長報告

遭難が多発している。事故は起こるかも知れないという前提で、リスク回避の準備を行うこと。

古道調査委員会

実施済み、調査予定の古道について報告。

「計画」

8月に実施予定の山行計画について協議、承認。

「その他」

京都新聞社出版計画についての現状報告があった。

第440回支部役員会

2022年9月7日（水） 18:30～20:00 （於）鴨沂会館 出席：14名 欠席：14名

「報告」

8月に実施された健幸登山教室・明王谷沢登り、歴史と文化の山旅・安土城について報告。

支部長・事務局長報告

晩餐会、会報「山」への執筆依頼、新入会員の紹介、遭難多発への注意喚起があった。

会計担当委員、古道調査委員会

現状報告があった。

「計画」

9月に実施予定の山行計画について協議、承認。

「その他」

京都新聞関連で、出版計画の現状報告、新規連載企画「信仰と伝説の山と里—京滋の伝承文化を歩く」について提案があった。

第441回支部役員会

2022年10月5日（水） 18:30～20:00 （於）鴨沂会館 出席：15名 欠席：13名

「報告」

9月に実施された健幸登山教室古道1・近江坂、巨木と山岳展望の旅・岐阜方面、山歩会例会・賤ヶ岳～山本山、巨木探訪・関ヶ原、米原、健幸登山教室古道2・鈴鹿千草越について報告。

支部長・事務局長報告

他支部・本部イベントへの参加、国土地理院地図修正WG、会報「山」への執筆依頼、新入準会員に

ついて報告。

会計担当委員、古道調査委員会

現状報告があった。

「計 画」

10月に実施予定の山行計画について協議、承認。

「そ の 他」

京都新聞関連について現状報告があった。

(中川 寛記)

——次号 150 号 予告——

2023 年 3 月 15 日発行 原稿締切 1 月 31 日(火)

原稿送付先 編集担当 中川 寛

＝ あ と が き ＝

今年3月に入会させていただいたばかりで、初めての『支部だより』の編集担当をおおせつかりました。戸惑いながら進行となってしまう、執筆者の方々にはご心配をおかけしたと思います。お力添えに、この場をお借りして感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

じつは、わたしは東京生まれの埼玉育ち。6年前に京都へ越してきました。数人の京都大学関係の方々のご縁があり、東京からお訪ねした際に京都の山を歩くことはありました。しかし、奥が深い。誌面に登場する山々のほとんどは、山名を見ても山容を思い浮かべられないありさまでした。これからひとつ、またひとつと京都・滋賀の山々を登りたいと思います。今年60歳になりましたが、80歳を超えてなお健脚を誇る先輩たちの姿は心強いかがりです。今号の活動報告にある大槻雅弘さんの「同じ山に3回登る」という言葉が強く印象に残りました。準備段階で地図を見ながらの机上の登山、実際の登山、報告を書く机上の登山ということ。胸に刻みたいと思います。

今後は、若い会員の方々の報告も読ませていただきたいと思います。ぜひ、京都・滋賀支部の『支部だより』に新しい風を吹かせてください。

日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより149号」

発行所 〒525-0072 草津市笠山3-6-6

松下征文方

日本山岳会京都・滋賀支部

発行者 松 下 征 文

編集者 藍 野 裕 之

印 刷 〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8

(株)土倉事務所

TEL 075-451-4844 FAX 075-441-0436



京都一周 トレイル マップ&ガイド

全5コース・
14ルートを楽しむ

京都一周トレイル会 公認

京都トレイルガイド協会 編

※本書の売上の一部をコース整備協力費として
京都一周トレイル会へ寄附します。

交通機関から歩きやすい
14ルートに分けて全コースをガイド!
難易度・コースタイムも掲載。
自分に合った歩き方を楽しめます。

**京都ガイド本大賞
2022リピーター賞 受賞!**

ナカニシヤ出版 〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095

1,540円(税込)・A5判・144頁



【木津屋橋本店】

〒600-8248

京都市下京区大宮通木津屋橋下ル

営業時間：10：00～19：00

休日：無休(年末年始および夏期)

1F/一般車
コーナー 075-341-7702

2F/スポーツ車
コーナー 075-341-7703

【久世店(オーダーフレーム工場)】

〒601-8205

京都市南区久世殿城町 162

営業時間：10：30～18：00

休日：毎週水曜日・木曜日

TEL：075-921-8679

I FEEL THE WIND



The Japanese Alpine Club

日本山岳会

会員証

公益社団法人 日本山岳会
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4
TEL: 03-3261-4433 <https://www.jac1.or.jp/>



●旧会員証でも構いません●

日本山岳会 会員証のご提示で
店頭価格から御値引いたします!

※特価品・SALE品は対象外です。
詳しくはスタッフまで!

取扱い
ブランド

gan well

ANCHOR

inelli

vittoria

HED. DOLAN

PINARELLO

LOOK

ANCHOR

SCOTT

FOCUS

Wilier

corratec

など